

	事務局	<p>説明を願います。</p> <p>資料1に基づいて説明。(要点のみ記載)。</p> <p>第5章 匝瑳市版生涯活躍のまち事業</p> <p>第6章 具体的事業</p> <p>匝瑳市版生涯活躍のまち事業地</p> <p>子育てゾーン、まちなか居住ゾーン、高齢者福祉ゾーン、交流ゾーン</p> <p>①情報を発信する取組</p> <p>シティプロモーション、匝瑳市の生涯活躍のまちプラットフォームサイトの整備、就業支援及び情報の発信、住宅情報の発信、生活情報の発信、自然災害の情報発信</p> <p>②地域住民に向けた取組</p> <p>住民の意識向上、移住者と地域の橋渡し</p> <p>③地域間連携の取組</p> <p>医療機関との連携、市民農園との連携、スポーツ施設との連携</p> <p>第7章 事業主体</p> <p>第8章 計画日程</p> <p>第9章 計画策定について</p> <p>アンケート調査結果</p> <p>第10章 実施計画</p>
	A 委員	32 ページ、お試し居住はどれくらいの年代を対象にしているのか。
	井上会長	サービス付き高齢者向け住宅にお試しで来てもらうことを考えている。
	A 委員	サービス付き高齢者向け住宅は何歳くらいから入所できるのか。
	井上会長	(原則として)65 歳以上であれば可能。
	A 委員	特別養護老人ホームは介護 3。匝瑳市では足りている。外部からの割合はどのくらいを想定しているのか。今後の見込みはどうか。また、入居した人の何割を他の事業者にするのか。こういった情報をどのように公開するのかなど、様々なことにも対応でき

		<p>るよう考えてほしい。</p>
	井上会長	<p>何割かという設定はしていないが、色々な形で市内の介護事業者の皆さんと幅広く連携をとりながら、総合的に調整し、介護事業者の皆さんと相談しながら取り組みたい。迷惑をかけることはせずに行いたい。特別養護老人ホームの完成までには(事業者の)協議会とも話し合いの場を設けたい。</p>
	A 委員	<p>65 歳以上しか入居しないと、6 歳から 65 歳の間は地域に移住者は来ない。そうすると情報発信の取組は、限定されてあまり伝わらないのではないかと。</p>
	事務局	<p>子育てゾーンは 0 歳から 6 歳、あとはほぼ 65 歳以上へのサービスになる。交流ゾーンができると、入居者も年齢も限定しないため地域の人や色々な世代との接点になると思う。地域との連携について情報発信の取組も地域再生推進法人のみが行うのではなく、なるべく様々な人に行ってもらえないかという考え方で入れている。シティプロモーションの情報発信についても九十九里ホームが市のことを全てわかるわけではないが、今後シティプロモーションをできる人と一緒に情報を発信する必要があることに気づいてもらうために入れている。できるだけこのような動きをたくさんの方が一緒にしてもらえないかという考えとなっている。</p>
	井上会長	<p>C 委員より、「計画書を見ると九十九里ホームだけが全て行っているように見えてしまうが、この事業はきっかけであり駅を中心とした周辺で職種も広げて多くの人や事業者と一緒にまちづくりに取り組む」という意見を事業計画書に取り入れてほしいという意見があった。</p>
	B 委員	<p>素晴らしい事業計画ができたと思う。実際の中身をどのようにするかが、これからの問題である。これから細かいことを詰めていく必要がある。私は、ここに新しい町ができると思っている。飯倉台周辺含め、地域再生の起爆剤になると思う。どれだけ皆が協力、支援、連携をして匝瑳市全体でこのプロジェクトを成功させるという気持ちで取り組むことが大事になる。新しい人たちと地</p>

	井上会長	<p>域住民がどのように接していくかが大切だと思う。住民の意識改革も大事だと思う。匝瑳市の認知度は低いため、行政側も匝瑳市のプロモーション活動を通して紹介する必要がある。一法人だけでプロモーションを行うことは難しい。したがって、行政側は積極的に支援し、匝瑳市のイメージアップに取り組み、行政としての支援体制をより強化してもらいたい。行政側と市民側と一緒にこのプロジェクトを成功させることが大事だと考えている。</p> <p>C 委員からの意見と、子どもと高齢者だけのことではないことの趣旨を付け加え、完成版を皆さんに届けます。</p>
	井上会長 事務局 井上会長	<p>議事 2 匝瑳市版生涯活躍のまち形成事業の今後について事務局から説明を願います。</p> <p>今後は、それぞれの事業計画に沿って地域再生推進法人に取り組んでもらい、様々な人たちを巻き込んで進めたい。匝瑳市は、地域から人口を減らさない、若い人を流出させない、新しい人口と交流人口を減らさないことが大事。地域と一緒にやる事業活性化やまちづくりが大切である。拠点から波及する効果をどのように使っていくかの議論を 4 月から進められるようにしたい。今後は、地域再生推進法人と市と協議をしながら、来年度の日程を決めたい。</p> <p>まだまだ事業そのものは続く。来年度末には特別養護老人ホーム完成、次にサービス付き高齢者向け住宅、その翌年には地域交流拠点施設、そして運営を軌道に乗せるためにはまだまだ時間がかかる。今は、地元の人に工事の迷惑をなるべくかけないように進め、高齢者住宅の計画を着実に進めることが我々の役目だと思う。地域の住民説明会で、地元の人々の意見で子どもについては本当に一生懸命である。九十九里ホームは子どもについてはわからないため、A 先生に指導してもらいながら対応している。今ある形に迷惑をかけないように、取り組めるように努めたい。</p>
	井上会長	<p>3 その他</p> <p>資料 2、3 として意見交換会、第 5 回協議会の議事録を提示している。相違があれば事務局にお伝え下さい。</p> <p>何かあれば、九十九里ホームの法人本部に連絡下さい。</p>

		4 閉会 閉会の挨拶を行った。